

令和 6 年 5 月 23 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00635

研究課題名(和文) 日本中世における異体字の研究 - 無窮会系本『大般若経音義』三種を中心として

研究課題名(英文) A Study of Variant Characters in Medieval Japan: On the Basis of the Three Sources of the Sounds and Glosses of the Dai hanyakyo Sutra Descended from the Mukyukai Ms.

研究代表者

梁 晓虹 (Liang, Xiaohong)

南山大学・総合政策学部・教授

研究者番号：00340274

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：この五年間、主に「無窮会系本」(『大般若経音義』三種(無窮会、天理本、薬師寺本)及び同系統の他の写本を資料として、漢字学、特に異体字比較研究の角度から研究してきた。その成果は、学術雑誌にて出版した論文が20篇、専著1冊、また国際学術会議で発表した論文が23点になる。その意義を特筆するとすれば、「無窮会系本」諸本の学術的価値を国際的視野の下に仏教音義研究を位置づけつつ、その資料の重要性を広く学界に紹介することであった。さらに、異体字研究を通して、漢字が東伝し、新羅や日本へ流入、発展、変遷した過程を跡付ける漢字の文化史を明らかにすることを兼ねた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果学術的意義は、日本中世の「単経音義」の代表とも称される「無窮会系本」三種を原資料に用い、それらに見られる大量の異体字に関し、様々な角度から検討することである。先ず、「専経異体字字書」の性格を具備する日本独特の「単経音義」これは中国の「一切経音義」と対比することによりその性格が伺えるが、異体字研究に提供する価値を評価することを学術的意義に捉えた。さらに、異体字研究を通して、漢字が東伝し、新羅や日本へ流入、発展、変遷した過程を追い、漢字文化史を明らかにすること、更に「無窮会系本」の学術的価値を国際的視野の下に広く学界に紹介することでもあった。

研究成果の概要(英文)：In the past five years, I have conducted research mainly on three kinds of sounds and glosses (the hand-copy manuscripts of the Sounds and Glosses on the Mahaprajnaparamita Sutra (the Mukyukai, Tenri, and Yakushiji recensions), as well as other hand-copy manuscripts from the vantage point of Chinese character studies, and these especially in the light of comparative variant-character analyses. My research resulted in the formal publication of 20 scholarly articles, 1 monograph, and 23 conference papers. To highlight the fruits of my research, they were to put the value of studying the sounds and glosses of the Buddhist sutras in an international perspective and to introduce its scholarly importance to the academic world. Furthermore, the study of the variant characters clarified the cultural history of Chinese characters as they were introduced to Silla, Korea and Japan where they had developed in their characteristic ways.

研究分野：言語学、中国語史、漢文仏典言語学、漢字学

キーワード：大般若経音義 無窮会本系 無窮会本 天理本 薬師寺本 漢字 異体字

1. 研究開始当初の背景

私は約二十年間にわたって日本単経音義の研究及び漢字研究に従事してきた。特に2015年からは、『大般若経音義』(石山寺本)、『大般若経字抄』(石山寺本)、『大般若経音義』(無窮会本)等三種の単経音義を中心に漢字学、とりわけ日本中世に於ける異体字を比較研究の角度から研究してきた(examined the variant characters from the comparative perspective)。本研究課題は、上記の研究成果を取り入れ、斬新にしてしかもかなり専門的な研究と性格づけられよう。

無窮会本系統『大般若経音義』三種は、鎌倉初期写本とされる無窮会図書館蔵本、弘安9年(1286年)の天理図書館蔵本写本、鎌倉から南北朝時代にかけての写本とされる薬師寺蔵本からなる。その外に、大須文庫本、大東急記念文庫本等古写本も十数種現存する。これらの写本の中には、異体字が膨大に使用され、“専経異体字字書”とも称された。注目すべきは、漢字の“故郷”とも言える中国にも見られない異体字が日本にて造られ、使用されていたことである。

異体字(variant characters)とは、特異な文字を使用する現象であり、その様々な位相は、従来専ら日本の学者により研究されてきた。その内容を総体的に評価してみると、“専経異体字字書”とも称される「無窮会系本」の異体字の実態が十分に解明されていないように思われた。その根本的な理由は、江戸時代に於ける異体字研究の興隆・研鑽に比べ、中世の異体字研究自体が不足していることのようなのである。また、異体字の研究は、国外でも比較的盛んで、その成果も少なくはないが、国際的に見て、日本の仏経音義が資料としてほとんど利用されていないのが現状である。中・韓両国の漢字学研究者は、日本の仏経音義古写本の資料の存在自体、また漢字学なる分野に属す異体字研究を認知していないのが現状である。特に「無窮会系本」三種等は、知る人ぞ知るとは言えるが、その数は稀少である。

本研究は、先行研究の不足分を補充しながら、「無窮会系本」の実態を解明することであった。特に、日本中世の「単経音義」の代表とも称される「無窮会系本」三種を漢字の異体字研究分野に正しく位置づけるとともに、“substantive research”(実在的、本質的研究)を行うことであった。換言すれば、「仏僧及び知識人が異体字というものをどのような認識、理解の下に実用していたか」という研究である。また、総体的漢字学研究のルブリックの下で行われるべきとの観点から、中国をはじめとする海外(台湾、韓国、欧米)に於ける漢字研究との学問的リンクを形成し、漢字史研究の国際的潮流を誘起することでもあった。

2. 研究の目的

本研究は、「無窮会系本」三種を原資料とし、これらに見られる大量の異体字について、様々な角度から検討を加えることにより、“専経異体字字書”の性格を具えもつ日本独特の「単経音義」(これは中国の「一切経音義」と対比できる)が、異体字研究に提供する価値を正しく評価することを主目的とした。更に、「無窮会系本」三種の膨大な異体字の全体数を凝縮、代表しており、比較研究の面からそれらが如何に認識、理解、実用されていたか——即ち「和俗」をも含んだ異体字の文化的背景の探求・究明であり、また、日・中・韓に散在する異体字資料及びその研究成果を渉獵、比較分析し、「無窮会系本」三種をそれらの「縮影」と捉え、古代日本の学僧や知識人の漢字の認知程度や漢字が日本へと伝播し、如何に発展していったかという漢字文化史の側面も明らかにすることを副目的とした。

3. 研究の方法

(1) 資料の調査と整理・分析。以下4点ほど記す：

既に入手しておいた「無窮会系本」三種をスキャンし、漢字ごとの形音義に関する画像付きデータベースを構築。特に「無窮会系本」三種を精読し、異体字の使用状況の全体像の把握に努めた。

未刊の「無窮会系本」を調査、収集。「無窮会系本」三種以外、他の「無窮会系本」の写本の十数種類が日本の各地の文庫、寺、図書館に散在する。例えば、大東急記念文庫本、大須文庫本、木曾定勝寺本、高野山大学図書館本等。これらの写本や他の写本の文献資料及び異体字を収集、考察し、「和俗」、異体字の整理、分類後、分析作業に移行した。

「無窮会系本」以外の奈良・平安・鎌倉時代に編まれた「単経音義」の古写本を収集し、関連する音義資料や異体字資料から有意義な部分を抜粋し、データベースに追補。これも古写本単経音義における異体字使用状況の全体的な把握を目指す基礎作業であった。

日本の資料収集のほか、中国古代辞書に見られる音義、敦煌遺書、房山石経、墓誌碑刻、韓国高麗大蔵経等中の異体字関係資料を収集。その作業中、資料の分析を通して、中国から伝来した異体字、また日本で漢字伝播中新しく造られた和俗異体字を比較すれば、共通点や相違点が見い出せ、分析可能になる。また「和俗」に備わる異体字が生まれた背景や発展過程を考察するにあたり、殊に日・中・韓の先学の異体字に対する認識の相違も明らかにし、時代背景や文化背景を反映している。

(2) 先行研究の検討

既刊の研究書、研究論文を閲読、ノートを取る作業を進めた。対象は、中国の『説文解字』、『玉篇』、『干祿字書』、『五経文字』、『九経字様』、『龍龕手鑑』、また台湾教育部所編『異体字典』（オンライン版）等であった。日本の文献としては、杉本つとむの『異体字研究資料集成』（一期、二期）にも収録されている『異体字辨』、『異字篇』、『別体字類』、『古今異字叢』、『異体字彙』、『異体同字編』、及び日本漢字字体規範データベース編纂委員会（代表：石塚晴通）『漢字字体規範データベース』等、韓国のものとしては、李圭甲著『高麗大蔵経異体字典』等であった。これらの研究成果は、以前の研究課題を行った時に、既に収集、整理したが、本研究の特徴に重きを置いて、例えば、『異体字研究資料集成』第一期の第四冊、五冊、六冊、七冊の倭俗字の資料などを検討した。

(3) “個案” 考察

“個案” 考察は、深く研究しうる方法である。「無窮会系本」三種、特に代表本の無窮会本に用いられた三十組の疑難異体字、を一つ一つ対象とし、同系統の他の写本との内容の異同、特徴、さらに同時期のその他の単経音義古写本といかに関連づけられるかといった比較研究を行った。そのような方法を採用することにより、古代より伝承されてきた『大般若経』及び写本単経に見られる実際の用字法が明らかになり、日本古代における異体字の認識、理解等の総括的叙述が可能になったと思う。

(4) 比較研究及び総合的研究

中・韓両国に於ける異体字資料、研究成果を取り入れ、特に国際的視野の下で研究した。その際、中国敦煌の遺書、石刻文献等、中古の異体字、韓国高麗大蔵経異体字を焦点に据え、漢字が東伝し、新羅や日本へ流入、発展、変形した過程を跡付けた。

異体字を収録した日本の資料、中国、韓国に存在する関連資料を調査・整理。これらの基礎作業の後、各資料に見られる異体字の比較考察を進め、「単経音義」古写本が古代日本の仏教界、官界で果たした役割や漢字伝播の具体的な様相といった漢字文化史の一端をも解明するよう努

力した。

4 . 研究成果

この五年間（新型コロナのため、2020年、2021年には、資料収集、研究活動に参加が殆どできなかったため、二年延長）主に「無窮会系本」三種（既に言及）及び他の写本を資料として、漢字学、特に異体字比較研究の角度から研究してきた。その成果は、学術雑誌にて出版した論文が20篇、専著1冊、また国際学術会議で発表した論文が23点になる。これらは、国際的視野からして、新しい貢献があるかと思われ、幾つかは、インパクトさえあると自負する。但し、「無窮会系本」の諸写本が日本に散在しているため、調査しにくく、所在不明の資料もあり、日本仏経音義の漢字研究の内容は、非常に豊富であり、未だ研究する課題は残っていると云わざるを得ない。

築島裕、『大般若経音義の研究・本文篇』、1977年、勉誠社。

鳩野恵介、「無窮会図書館蔵本『大般若経音義』における異体字表示の術語について」、『国語文字史の研究』十一、2009、153-169。

杉本つとむ、『異体字研究資料集成』、第一期（第二版）、全12冊、1973年、雄山閣。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 三十巻
2. 論文標題 無窮会本『大般若経音義』疑難異體字例考(下)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東亜文献研究』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 Vol. 5,
2. 論文標題 “An Exploratory Survey of the Graphic Variants Used in Japan: Part Two,”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Chinese Writing Systems,	6. 最初と最後の頁 115 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 21輯
2. 論文標題 「無窮会本『大般若経音義』第四十帙鳥名考」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『域外漢籍研究集刊』	6. 最初と最後の頁 17 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 31輯
2. 論文標題 「“無窮会本系”『大般若経音義』‘詹’聲俗字考」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『漢語史研究集刊』	6. 最初と最後の頁 267 - 281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 卷 13輯
2. 論文標題 「天理本篇立音義考論」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『文献語言学』	6. 最初と最後の頁 149 - 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 卷 8
2. 論文標題 「以兼意「四抄」兩大系写本為中心考察平安時代漢字特色」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『國際中国文学研究叢刊』	6. 最初と最後の頁 67-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 卷 11
2. 論文標題 「日本早期仏經音義特色考察-以『大乘理趣六波羅蜜經釈文』為例」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『文献語言学』	6. 最初と最後の頁 106-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 卷 14
2. 論文標題 「天理本、六地藏寺本『大般若經音義』之比較研究-以訛俗字為中心」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史語言学研究』	6. 最初と最後の頁 25-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 2
2. 論文標題 「日本保延本『法華經單字』漢字研究」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『跨文化視野与漢字研究』	6. 最初と最後の頁 127-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 25
2. 論文標題 「『大般若経音義』疑難異體字例考」(上)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東亜文献研究』	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 巻 26
2. 論文標題 「『大般若経音義』疑難異體字例考」(中)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東亜文献研究』	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Xiaohong Liang	4. 巻 Vol. 3,
2. 論文標題 “An Exploratory Survey of the Graphic Variants Used in Japan: Part One,”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JOURNAL OF CHINESE WRITING SYSTEMS (JCWS), (Special Issue: The Sinitic Scripts in the Sinosphere)	6. 最初と最後の頁 141-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 卷 13
2. 論文標題 「日本早期仏經音義特色考察 以醍醐寺藏『孔雀經音義』二古写本為例」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国社会科学院語言研究『歴史語言学研究』	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梁曉虹	4. 卷 9
2. 論文標題 「日僧撰『俱舍論音義』的語料價值 以漢字研究為中心」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北京語言大学『文献語言学』	6. 最初と最後の頁 50-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「“無窮会本系”『大般若經音義』“詹”聲俗字考」
3. 学会等名 第三十三回中国文字学国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「“無窮会本系”『大般若經音義』在日本古辭書音義研究上的價值」
3. 学会等名 第七回文献語言学国際學術論壇（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「“無窮会本系”『大般若經音義』訛字研究—以高野山大学本為例」
3. 学会等名 第四回跨文化漢字國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「天理本『大般若經音義』異體字研究」
3. 学会等名 第三回華中大語言論壇
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「論“無窮会本系”『大般若經音義』疑難異體字的研究價值—以無窮会本為中心」
3. 学会等名 近代漢字研究第四回學術年會
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「“無窮会本系”『大般若經音義』複音詞積文特色研究」
3. 学会等名 第二回漢語音義學研究國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「康曆本《大般若經音義》類聚“梵語”、“漢語”特色考察—以“梵語文”為中心
3. 学会等名 第十五回“漢文佛典語言学國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「從日僧撰『大般若經音義』看佛經音義在日本的發展」
3. 学会等名 第三回域外漢文文献語言学工作坊
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本俗諺字考 以“無窮会本系”『大般若經音義』中“弘”字為例」
3. 学会等名 第三回跨文化漢字研討会：東アジア写本漢字及び文献研究会（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 無窮会本『大般若經音義』第四十帙鳥名考 兼論其音義特色」
3. 学会等名 第十二回中古漢語國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本天理本“篇立音義”考論」
3. 学会等名 第一回漢語音義学研究國際學術研討會及び第四回仏經音義研究國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「佛經音義‘日本化’發展進程考察 以“無窮会本系”『大般若經音義』為例」
3. 学会等名 佛教傳播與語言變化，第十四回漢文佛典語言學國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本早期佛經音義特色考察 以『大乘理趣六波羅蜜經釈文』為例」
3. 学会等名 第5回文献語言學國際論壇（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本佛經音義与漢字研究」
3. 学会等名 第一回華中語言學高級論壇（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「天理本、六地藏寺本『大般若經音義』之比較研究-以訛俗字為中心」
3. 学会等名 東北亞漢文寫本研究的過去与未来學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本俗字研究芻議」
3. 学会等名 第五回出土文献与上古漢語研究及び漢語史研究學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本俗字初探」
3. 学会等名 世界漢字大会第7回年会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁曉虹
2. 発表標題 「日本早期佛經音義特色考察-以醍醐寺藏『孔雀經音義』二古寫本為例」
3. 学会等名 第13回漢文仏典語言学國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 梁曉虹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 上海教育出版社	5. 総ページ数 473
3. 書名 『無窮会本系「大般若経音義」研究—以漢字研究為中心』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------